

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一12:1~3「イエスは主です」

[1]「さて、兄弟たち。御霊の賜物についてですが、私はあなたがたに、ぜひ次のことを知っていただきたいと思います」

パウロはここから御霊の賜物について教えていく。御霊はイエス・キリストを救い主と信じる信仰者の内に住んでおられる。→Iコリント6:19、ヨハネ14:16~17 御霊は父、子、御霊（聖霊）の三位一体の神の第三位格の御霊なる神である。この御霊によって信仰者は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制といった実を結ぶことができる。→ガラテヤ5:22~23 しかし、御霊の賜物という場合はそれとは違う。賜物とは「贈り物」という意味であり、御霊が信仰者一人一人に与えてくださる贈り物であり、それは多様性に富む様々な能力と言えるものである。使徒2章のあのペンテコステの日以来、神は福音の前進と教会の成長のために、豊かな御霊の賜物を信仰者一人一人に与え、祝福して下さっている。そしてパウロは、この御霊の賜物をコリント教会のクリスチャンたちがあたかも自分自身から出たかのように誇ったり、悪用したりすることがないようにとの思いを込めて語っていく。

[2]「ご承知のように、あなたがたが異教徒であったときには、どう導かれたとしても、引かれて行った所は、ものを言わない偶像の所でした」

これは、私たち日本人の経験に照らしてもよく理解できる場所である。この偶像に対して聖書が教えていることは→詩篇115:4~8、マカ書2:18~19。 私たちはかつてはこの偶像を信じ、拝み、わけもわからずに従っていた。しかし、まことの神はこのようになしいものではない。天地万物の創造主であり、永遠から永遠に存在され、義であり、愛であり、恵みをもって私たちを救い、導いてくださるお方なのである。

[3]「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、『イエスはのろわれよ』と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」

神の恵みによって救われ、聖霊が内に住んでおられるクリスチャンは、「イエスは主です」と告白するものであり、また「イエスはのろわれよ」とは決して言うことはない。逆に、イエス・キリストを救い主と信じていない人々は、「イエスは主です。私の救い主です」とは告白することはない。→Iヨハネ4:2~3

なぜパウロがこのようなことを教えるのかと言えば、当時、ギリシヤの思想、文化の影響のあるヘレニズム世界においては熱狂的な宗教現象がしばしば見られ、その現象が御霊によるものか、この世の霊、悪霊によるものか見分けるポイントがこの「イエスは主です」と告白することにかかっていたからである。このようにして、御霊によるものか、そうでないものかを見分けることを教えて、次節以下でいよいよパウロはコリント教会のさまざまな御霊の賜物について、順序正しく、整理して教えていく。

私たちもイエスを主と告白し、御霊が内に住んでくださる者として、この世的、肉体的な生き方ではなく、御霊によって歩む者とならなければならない。